

「株式会社 姫路シティ FM21」

第47回 放送番組審議機関 審議会議事録

1. 開催日時 平成24年3月3日(土曜日) 午後1時30分～午後3時

2. 開催場所 イーグレひめじ セミナー室

3. 出席状況

1) 委員総数 11名

2) 出席委員数 9名

3) 出席委員の氏名(敬称略、順不同)

有馬 妙子	井上 重義	岩成 孝	大谷 昭仁
岸田 直美	衣笠 愛之	飛田 亜寿沙	柳谷 郁子
湯之原 貴夫			

4) 欠席委員の氏名(敬称略、順不同)

梅宮 功	宮本 節子
------	-------

5) 会社側出席者氏名

白井 正敏	(専務取締役 放送局長)
黒田 俊雄	(常務取締役 営業部長)
福田 浩	(営業企画部 主任)

4. 議題

審議会にさきだち、新任となった姫路青年会議所 湯之原貴夫委員からの挨拶があった。

1) 局長より挨拶

平成23年度も残り少なくなってきた。今年度は東日本大震災、台風など災害が続いた1年であった。FMゲンキとしては10周年を迎えることができた。今回の審議会では、来年度の事業などについてご意見をお伺いしたい。

2) 資料説明

白井局長より資料の説明があった。

3) 試聴

「宇佐八幡神社改築竣工式」を10分程度試聴した。

4) 意見交換

委員

1月15日に町内で防災訓練を実施し、FMゲンキ小幡課長に来ていただき「防災とラジオ」と題して10分程度講演をしてもらった。参加者からも好評との声を聞いている。先ほどの防災の話の中で、現地リポーターをお願いすることはできないだろうか。自治会長や消防団長など。火事や大きな事故などにも応用できる。

先日、別件でMBSラジオに20分間出演させてもらった。そこで面白かったのが、番組中にFAXがどんどん流れてくる。FAXをすべてみせて頂いたが、賛否様々な意見をもらうことができた。昔ながらのFAXも活用すれば良いのではないか。先ほどのUSTREAMの話だが、先日別の取り組みに出演したが大変面白かった。あのようなものも活用いただきたい。

番組表を見ると、金曜日夜10時～の再放送がもったいない。学生に向けた番組を作ることはできないのか。高校の放送部に協力してもらい流せば、スポンサーも取れるのではないか。スポンサーのことで言えば、農業関連の番組があればJAやホームセンターなどがすぐになってくれるのではないか。スポンサーを取りに行くという視点での番組も必要である。

局長

従来は午後8時以降は東京からの配信番組が多かったが、そこに自社制作を入れていこうということで取り組み始めている。生放送はなかなか難しいが。

委員

高校生が番組を作れば、その高校は聴いてくれる。

局長

高校生の分では火曜日19時～「はちやめちゃアワー」を放送している。高校・中学などのクラブ活動取材して放送している。

委員

なぜこの時間なのか？火曜日のこんな時間に聴くことができるのか？

事務局

高校生が出演している時間については、事前取材である。学校の許可がもらえない。校長先生、教頭先生、部活の顧問の先生すべての許可がいる。

委員

高校生が聴きやすい時間はどの時間なのか？

委員

私達も学校でラジオ番組を作っている。広めたいという意識はある。身近な友人もラジオは聴かない。そこで聴いてもらうためには、身の回りの人を巻き込む必要があると考えている。先日生放送をしたが、他の学

生にも参加していただいた。USTREAMやfacebookなども使ってやっていたが、一番聴く時間を考えた場合、19時ではない。家に帰って、受験生ならラジオを聴きながら勉強するので、21時以降23時ぐらいまでか、土日の昼間であれば、聞いてもらえるのではないか。時間帯とリスナーの関係は大切である。

委員長 夜の生放送は大変なのか？

局長 大変である。今年度、近畿医療福祉大学が夜間にやっていたが、社員も夜間に出社して対応している。学生も教員もこられるので大変である。新年度は早い時間でやることになる。

委員長 生放送は臨場感があって良いが、制約が多いということか。今のところは録音でしかないか。

委員 リアルなニュース番組でなければ、生放送も録音番組も同じである。

局長 その通りである。

委員 生放送の後反響はあったのか？リサーチやアンケートを行い、何時の時間に何をしているか、それを分析していく必要がある。塾など個々の事情が異なるので一概には言えないのではないだろうか。

委員 生放送をする必要は無い。

委員 リスナーを高校生対象としてとるのか。

委員 高校生や若者が一番聴きやすい時間をおさえて、そこに番組を作ればスポンサーを持っていける。

委員 教員をしているので実感するが、学校が参加するというのは難しい。

委員 高校生が作った番組を教員が制約をかけるというのも良くないと思う。

委員 学校側はそれを出さないという制約がある。

委員 規制をしすぎたら・・・。

委員 学校の場合は問題がおきやすいので厳しくなるのではないか。

- 委員 放送部の担任で理解のある先生などをお願いすれば。高校生のリスナーを増やすのは必要。
- 委員 私たちの若い時代はラジオをみんな聴いていた。
- 委員長 学校を通すと問題が大きくなる。個人でなんとかできれば良いのではないか。
- 委員 県大アワーのチームキャンパスボイスというのはどういうものなのか？有志なのか、顧問がいるのか。
- 委員 1回生から3回生までいる。宮本先生が顧問である。内容は社会的なものが求められている。学生は楽しいことがしたいや自分達の好きな番組をつくりたくて入ってくるが、学生らしい番組としてその路線を走ると、社会的なものや地域性のあるものからはずれてしまう。創るのは学生なので、自分達のやりたいことを押さえて、違うことをやるので、創る楽しみがうしなわれしまう部分がある。
- 委員長 いちいちお伺いを大学に立てているのか？
- 委員 ありません。
- 委員長 高校はいろいろと厳しいところがあるかもしれないが、大学はなんとかできると思う。
- 委員 活動は充実してますか？
- 委員 今後人が減っていったときに、どうやったら興味を持ってもらえるか。構成はゼミのメンバーが中心。
- 委員 研究などの対象なのか？
- 委員 研究対象ではない。もっと大学を使ってほしいと思っている。前回の審議会で防災の話が出たが、自治会の方が防災に取り組まれているということを知ったが、大学生は逃げ遅れるのではないかと思った。一人暮らしが多く、自治会活動も知らず、どこに逃げたらいいのかもわからない。大学の中でも防災活動ができないか考えている。資料でもらった「FMゲンキのラジオと防災」の講演などをお願いすることはできないのか。
- 局長 担当が県立大学にお伺いして講演もさせていただいている。いつで

も声をかけてほしい。実演なども取り混ぜながらやっており、先生からも好評であると伺っている。

委員 それを放送することはできないのか？なによりも宣伝になると思う。FMゲンキの活動を知ってもらうきっかけにもなる。

委員 氏をそういう位置づけにしたらどうか。

局長 なかなか達人になっているので、いけると思う。

委員 小学校や中学校にも行ってもらって、営業にもつながるかもしれない。

委員 小学生を対象にした学生団体もある。FMゲンキから制約があるのであれば、学生団体から行くことも可能。

委員 今年の研究助成で県大が地域貢献・防災の内容があったように思う。そのようなことを学生さんが研究されているときに、FMゲンキもリンクをしてやっていくと良い。

委員 地域SNSのひよこむは防災面でも活用されている。

委員 県立大ならできる。目標を作るべきである。一つの研究として、やっていくと就職にも役立つ。

局長 防災とラジオというのは、密接である。大学でそのようなアクションがあるのであれば、FMゲンキからもできることがあると思う。どんどん声をかけてほしい。

委員長 色々なこととリンクさせていけば、新しいことができる。

委員 JCさんからの取り組みはできないのか。ラジオを活用していただいて。

委員 facebookなどの活用はどの事業においても発信力や反響が大きい。

委員 ぜひFMゲンキの宣伝を・・・。

局長 色々なところで色々な取り組みをされると思うが、FMゲンキのことを念頭においていただきたい。どんだんご利用いただきたい。

委員 スポンサーは？

局長 厳しい状況である。平成24年度の予算を立案中だが、厳しい状態でもある。

委員 スポンサーをどうやって増やしていくのか？という視点もこの審議会では必要ではないか。スポンサーを作っていくような番組も必要である。今見ていたら、スポンサーがつくような番組があるかな・・・と感じる。

局長 スポンサーをつけていただいているのは、定番としてのニュース、天気、交通情報などがあるが、時間を買っていただいた番組なども増えている。しまちゃんねる、しんちゃんのE～たまごなど、活用していただいている。近畿医療福祉大学の番組については、大学がスポンサーである。そのようなスポンサーのつきかたもある。

事務局 元々の番組やコーナーにスポンサーをつけるというよりも、経営者に提案してオリジナルで提供いただくという形が多い。夕方のゲストコーナーについても、生放送の中の10分間を提供していただき、様々な情報を発信していただいている。

局長 タイム提供で生放送出演であれば、非常に安い。

委員 自治会がスポンサーというのはいりえるのか？

事務局 過去にはあった。

局長 来年度はあまり大きなイベントはないが、姫路駅周辺に関する話題や総社の三ツ山祭も来年にある。地域の祭りとしても応援したい。黒田官兵衛については2年前から取り組んでいるが、姫路市からもお城の改修が終わるまでは続けたいとの意向があるため、協力しながら取り組みたい。

委員長 インターネット放送となれば、映像が必要になってくるのか？ラジオだから映像はいらないと考えられるが、考え直す必要もあるのかもしれない。例えばCATVとのタイアップなどは考えられないのか。

局長 CATVのタイアップは今のところ無い。現在、サイマルラジオと映像は切り離されている。サイマルラジオとUSTREAMとを同時に動かすと音のズレがある。権利の問題も。

委員 番組に対するリスナーの声はどのような形で受けているのか？

- 局長 フリーマガジンのアンケートハガキを活用している。番組に関しては、この場でみなさんからご意見いただくのが一番良い。委員会の場だけでなく、メモなどで構わないのでいつでも教えてほしい。
- 委員 ハガキの意見はどのように活用しているのか？
- 事務局 誌面の余裕にもよるが、編成担当がフリーマガジンで時には冗談も交えながら回答している。代表的なものはホームページにも掲載している。
- 委員 ラジオモニター制度はあるのか？可能性は？
- 事務局 現状はない。
- 局長 手法を考える必要がある。
- 委員 また提案したい。
- 委員 おじいちゃんの独り言、おばあちゃんの独り言など、ほんの数分入れてほしい。お年寄りにはラジオを聴いている。若い方向けの番組ばかりだと聞いたので、そのようなものを取り入れるべき。
- 局長 1年間ぐらい高年齢者にインタビューする番組をやっていた。
- 委員 1か月分ぐらいストックがきく。
- 局長 タイムテーブルにもあるが、百人の哲学という番組もききごたえがある番組である。
- 委員 電話インタビューでも良い。
- 局長 一番のネックは、出演者の確保である。飛び出せ！まちの元気人や夕方のゲストコーナーにどんどん入れている。番組の中では「播磨まるごと探検隊」という中で、各地の行楽スポットから電話インタビューをしている。
- 委員長 どのような方がリスナーであるかということにはわからない。ある放送作家の方からきいたが、サイレントマジョリティを掴まなければ空中分解するというそうだ。
- 委員 本当に一言で良い。気軽に応じてくれる。

局長 リスナーの方で一番反応が高いのは、夜間の音楽放送である。演歌などで、番組内容の問合せなどがあれば、翌朝にすぐ連絡がある。

事務局 曲紹介でミスがあった場合などは、翌朝すぐに電話がかかってくる。録音して聴いてるようである。

局長 かなり年配の方でも聴いておられる。

委員長 昔の話だが父は日曜日に昼寝をしながら、クラシックのラジオ番組ばかりを聴いていた。安心するようである。

午後3時、以上の報告・討議・検討を終了し、閉会した。

公表年月日 平成24年3月6日

公表内容 審議の概要

公表方法 事務所据え置き、ホームページ (<http://fmgenki.jp>)

自社放送7時～8時「元気発信ふれあいラジオ」内

以上